

天溪 2012 年「キリマンジャロ(5,895m)とサファリ 12 日間」

「キリマンジャロ(5,895m)とサファリ 12 日間」を 2 月 13 日～2 月 24 日に行いました。

今年最初の天溪ツアーはアフリカ大陸の最高峰、すなわち 7 大陸最高峰の一つ キリマンジャロ登頂とサファリ。

記録的な寒波に震える極寒の日本を後にして中東のドーハ経由でタンザニアへ。6000m近いこの山はヒマラヤに比べ短期間に登頂できますが、成功と失敗は紙一重。その時の体調、気力、天候そして運に左右されます。このツアーの企画コンセプトは勿論登頂ですが、登頂出来なかった時のバックアッププランとして、東アフリカの代表的なサファリのンゴロンゴロ保全地域及びアンボセリ国立公園を訪れ、山とサファリの 2 部構成にしています。



(ジャイアント・セネシオ 2 月 18 日)

○登山風景

標高 1700mのマランゲートを出発し、マンダラハット(2700m)、ホロンボハット(3700m)、高度順応で連泊、最後にギボハット(4700m)と 1000m刻みに高度を上げます。ギボハットで仮眠後、真夜中に出発しウフルピーク(5895m)を目指し、登頂後はギボハットを通過してホロンボハットまで一気に下山します。要するに 5 泊 6 日の速攻登山です。Nさん持参の必勝「日の丸」に寄せ書きし、いざ出発！ ※ハット＝山小屋



(ラストウォーター手前 2 月 18 日)



○登頂

キボハットを 午後 11 時に出発。この時のサポーターはガイド 4 名、サミットポーター 5 名の計 9 名。午後 5 時頃から降り出したあられ交じりの吹雪が収まり(降雪 10 センチ)、南十字星が輝く赤道直下の凍てつく寒さの中、時折襲う横風によるめきながら頂上を目指しました。高所は勿論、暗闇と天候不順の狭窄からか、登頂者は予想 7 割に届かぬ 5 割と私としては不本意な結果に。しかし、無理せず早めに諦めた皆様に拍手。この山は「絶対登る」は死に直結するので「絶対無事帰る」から始まります。(テレビのドキュメンタリー番組を信じない事)

最終日にガイド、ポーターの皆さんと解散式を行い感謝の心付けを渡し「キリマンジャロの歌」で締めてなごり惜しく下山。現地スタッフ 50 余名に我々合わせ総勢 70 余名、何とも大きなトレッキング隊でした。余談ですが参加者の平均年齢は 60 代後半、頂上の印はスキー場の様な(味気ない)緑のボードに変わっていました。



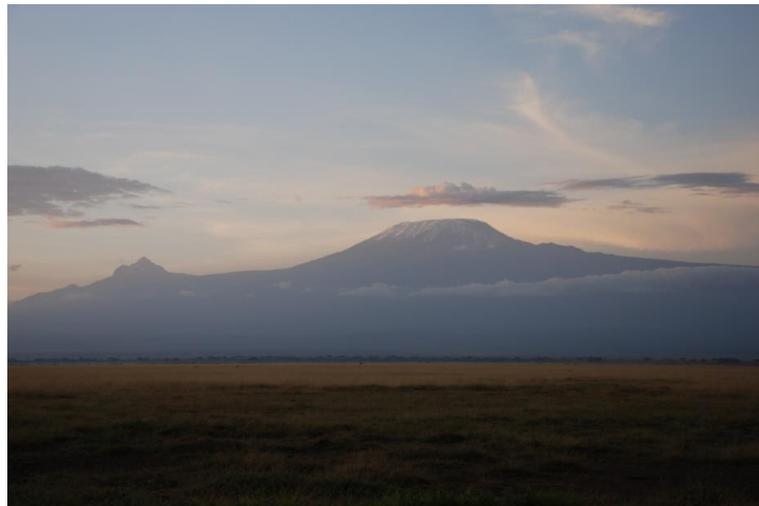
(ギルマンズポイント直下の様子 2 月 19 日)





○サファリ・ツアー

キリマンジャロ登山の後は東アフリカ名物の動物サファリ。檻の無い広大な動物園にいる様な錯覚を起こすほど動物が密集生息する原野をサファリカーでゲームドライブ。宿泊したンゴロンゴロ・ソパ・ロッジとオル・トカイ・ロッジはどちらもこんな原野に何故と思わせる素晴らしさでアフリカの一夜を堪能しました。



(早朝のキリマンジャロ 2月23日)

<ンゴロンゴロ保全地域>

東西 19Km、南北 16Km、深さ 600mのカルデラの底に有り、インパラ、キリンを除く殆どの動物が見られる素晴らしい所です。北西に接するセレンゲティ国立公園と並びタンザニアを代表するサファリで 1979 年 自然遺産として世界遺産登録、2010 年には複合遺産として拡大登録されています。

※キリンは足が長くこのカルデラの急斜面を降りられない為に生息していないとか。しかし、カルデラ手前の道路上で結構キリンを見ることが出来ました。



(ンゴロンゴロ 2月22日)



<アンボセリ国立公園>

キリマンジャロの北側、ケニアに位置するこの公園はアーネスト・ヘミングウェイが「キリマンジャロの雪山」を執筆したところ。綺麗に広がった裾野を持つキリマンジャロの朝焼け(アフリカの夜明け)を見る事が出来ました。このサファリの特徴は何と言ってもアフリカ象の群れ。縦一列で移動する何十頭もの像の行進は見応えが有ります。



(像の行進 2月23日)



次回の天溪ツアーはアフリカ大陸から南アメリカへ所を移し「インカ道トレックとマチュピチュ遺跡 11 日間」をお送りします。

天溪 赤沼